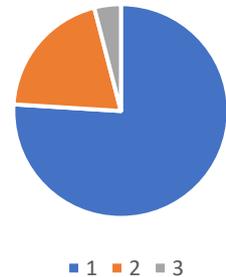


## ■小田原市市民活動応援補助金交付事業等に関する調査結果

- 1 実施時期：令和4年3月22日（月）～4月15日（金）
- 2 調査票送付対象：直近5年間で小田原市市民活動応援補助金を活用された30団体  
※現在活用中の団体含む
- 3 回答数：25団体（回答率83.3%）

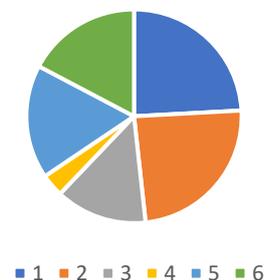
Q1 すべての団体にお尋ねします。終了後も同様の事業（または発展させた事業）を実施していますか。  
（1つ選択）

①現在も実施している	19
②以前は実施していたが現在は実施していない	5
③実施していない	1



Q2 Q1で「①現在も実施している」と回答した団体にお尋ねします。終了後も、同様の事業を実施するために、どのような方法で資金を確保していますか。（複数選択可）

①物品販売やサービス提供により対価を得るなど、収益性のある事業を実施している	7
②寄附金や協賛金など金銭面での支援を受けている（補助金を除く）	7
③他の補助金を活用している（補助金名：）	4
④物品や会場の無償提供など金銭面以外での支援を受けている	1
⑤事業規模の縮小などにより経費を削減している	5
⑥その他（具体的に：）	5



Q2-③ 補助金名

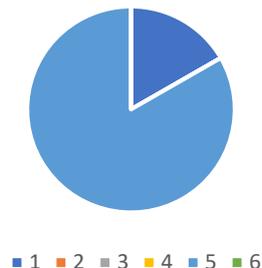
- ・志民ネットの助成金
- ・市社会福祉協議会のボランティア等活動団体経費助成金
- ・むすびえ子ども食堂補助金等

Q2-⑥ その他

- ・クラブ員からの会費増額
- ・会員から年会費（1口1000円、1口以上）の徴収
- ・会費収入内での活動にとどめている
- ・クラウドファンディングを視野に入れている
- ・会員からの年会費等。
- ・特になし

Q3 Q1で「②以前は実施していたが現在は実施していない」・「③実施していない」と回答した団体にお尋ねします。実施していない理由は、どのようなものですか（複数選択可）

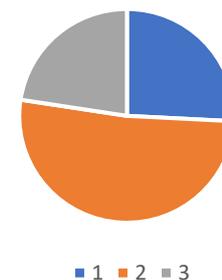
①事業を実施するための資金が不足しているため	1
②事業を実施するための人材が不足しているため	0
③一時的な事業として実施したものであり、継続する考えがなかったため	0
④団体の活動方針を変更し、現在は他の事業を実施しているため	0
⑤新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなくなったため	5
⑥その他（具体的に：）	0



Q3-⑥ その他

Q4 すべての団体にお尋ねします。終了後も、団体が事業を継続・発展させるために、どのような支援（補助金を除く）があるとよいですか。（複数選択可）

①活動資金や人材確保に関する研修、情報提供	8
②協力し合える団体・企業・地域等との交流・コーディネート	16
③その他（具体的に：）	7



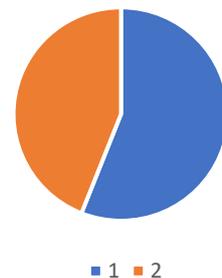
Q4-③ その他

- ・特になし
- ・防災講話実施機会の支援（特に自治会への奨励）
- ・自助、公助をメインとする・公的な寄附金制度があると良い。例えば、活動を紹介するサイトを作り、寄附金を募る仕組みを作る。企業や個人名を掲載するなど。
- ・地域のニーズはあるため事業の継続（再開）を検討しているが、新型コロナウイルス感染症の動向に影響を受ける。
- ・大人の会員からの年会費で活動資金を維持するのは簡単ではないため、活動補助金の受給回数制限の解除・緩和。青少年が集いその中で活動を紹介できる場の創出。

Q5 すべての団体にお尋ねします。他の主体と協力して活動した経験がありますか。（1つ選択）

例）他の主体と一緒に企画して事業を実施する、他の主体の活動に協力する、他の主体から寄附、協賛、ボランティア、物品や会場の提供などの協力を得る

①ある	14
②ない	11



Q6 Q5で「①ある」と回答した団体にお尋ねします。協力の相手と内容をお答えください。（自由記載）

- ・ぴんたっこ、体験教室の実施
- ・子育ての輪Leiと就学前児童と親への防災講座等を実施
- ・関東学院大学（ミカン農園再生で連携）、神奈川大学（野外活動の受入れ）、小田原箱根商工会議所（冊子作製受託、イベント撮影）、小田原福祉会（有償福祉運送サービスの一部受託）、厚木市観光協会（物販施設へのミカン納入）
- ・神奈川県小田原保健福祉事務所（会場の無償提供）
- ・おだわら児童館連合のイベントで鉄道模型を運転
- ・企業や個人活動家とコラボした子育てに関係したワークショップの開催
- ・NPO団体
- ・小田原市森林組合の職員に間伐率の指導をしていただいたこと。今後もいろいろな指導を受け、交流を深めたい。かながわ鳥獣被害対策センターに集落環境調査のご指導をいただいたこと。
- ・市民活動団体→メダカを守ることは田んぼを守らなければならないので、休耕田を耕作する「おだわら農人めだかの郷」。そして、その米を販売する「桑原めだか米の会」との協働の活動。企業→環境保全に共感してくれヒト、カネを支援してくれているTOYOTAウェインズグループとの協働の活動など。
- ・地元企業や団体、協賛、出店など。
- ・小田原白梅ライオンズクラブ、城北ロータリークラブ
- ・地元のお店及び上場企業（ただし令和4年度から）。
- ・JA西湘青壮年部と曾我小学校の玉ねぎ栽培授業の圃場作りと植え付け、収穫の指導
- ・和の文化塾、山盛の会が企画したUMECOでのアクティブサロンに協力して活動した。

Q7 すべての団体にお尋ねします。どのようなきっかけやメリットがあれば、他の主体と連携・協働したいと思いますか。（自由記載）

- ・スポーツを通じた子どもの健全育成の依頼があれば協力することはやぶさかではない。
- ・防災啓発活動機会の増加と効果の向上・会員に適した活動の場の拡大（有償・無償）
- ・情報収集
- ・子どもだけではなくお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に楽しめる企画が作れる団体さんと連携できるといいなと思います。
- ・人的資産
- ・他の主体の協働すればイベント参加者が増えそうな場合・定期的な活動内容、成果の発表会の開催。
- ・方向性が同じであるか否か
- ・分からない
- ・活動目標が共有できる。
- ・具体的なことが今は思いつきません。
- ・情報発信の場の提供、また娯楽発信などの連携・協働を行いたいです。
- ・活動内容が類似しているような団体と話し合いの場を。機会が欲しい。具体的には、UMECO等が似ている活動内容の団体をセッティングする。
- ・作業や調査のスキルアップになること。
- ・今後も他の団体、組織等と積極的に連携・協働をしていきたいと考えています（過去にも実績あり）。
- ・メリット云々に関わらず、他の団体と協力しあって、よりよい地域作りができたらと思っています。
- ・今は、他団体と協力しても実働メンバーが少なくメリットを感じない。人材としてはオンライン技術は知識を持っている人と出会いたい。連携としては、学校や幼稚園等で活動の場を広げたい。
- ・同じような志や悩みを持っていてその解決に取り組んでいける。
- ・他の主体の青少年への当会の紹介ができる場合（青少年のためになる授業を行っているので、広く知ってもらうため）。
- ・不要
- ・他団体と交流する機会や活動を通じて自分たちだけでは出来ない学習・体験ができること。
- ・申請や活用が面倒ではない構造の活動分野別マッチング制度があると良い。
- ・現在行っている間伐作業で切り出された間伐材を有効利用してくれる多様な主体があれば、連携・協働したい。

Q8 すべての団体にお尋ねします。市民活動団体と多様な主体との連携の促進に向けて、市やUMECOに何を望みますか。（自由記載）

- ・スポーツを通じた子どもの健全育成に対する理解（当時の補助金事業の市民課からの審査担当の無理解な発言が大変残念であった）
- ・交流機会の拡大
- ・他団体で必要とする人材情報の提供
- ・情報提供
- ・「こういう企画があって一緒にできる団体を募集しています」のような掲示板がネットでほしい。
- ・応募団体や組織の活動は比較的実行がしやすいものや手が掛かるものなど色々あるので、画一的でない、活動に応じた支援や助言があるといい。
- ・マッチングです
- ・定期的な発表会の開催、交流会の開催。
- ・特になし
- ・市には、なかなか改善されない子育て関係課同士の縦割り体質の打破を望みます。
- ・さまざまな交流会があれば参加したい。
- ・今は思いつきません。
- ・イベント開催時の借用場所経費削減、周知チラシ配布などの協力、後援、協賛のご協力。また、活動のご相談やコメント、評価も頂けると、活動の気付きにも繋がり有難いです。他活動団体の交流会開催なども望みます。
- ・活動内容が類似しているような団体と話し合いの場を。機会が欲しい。具体的には、UMECO等が似ている活動内容の団体をセッティングする。
- ・作業現場を提供していただけること。茶菓子や昼食を提供していただける所。近隣の市町村との連携。
- ・市に対して→SDG sの実現に至るためには、環境行政のパワーアップが必要。環境あつての経済発展という理解をあらためて。特に、農業、林業の一時産業への財政支援は急務。  
UMECOに対して→多くの市民活動団体の「声」を「つないでいく」コーディネート能力の更なるパワーアップを望みます。プロデューサーが必要です。
- ・イベントの告知や広報への協力（例：デジタルサイネージの活用）
- ・団体同士の横のつながり作り、研修や講習のあとのアフターフォロー
- ・コーディネーターの設置
- ・情報の共有
- ・青少年が幅広く集い、その中で活動を紹介できる場の創出。産・学・官とのコラボレーション。地域政策課との対話集会。
- ・特になし
- ・団体の紹介、情報提供
- ・掲示板的な仕組み
- ・現在サポートしていただいている地域サポーターとして活動していらっしゃる方の活躍で、連携が促進し始めている。ますます今後もつなげてほしい。そして市民活動団体の連携をはかっていきたい。

## ○所見

御回答いただいた応援補助金交付団体の7割以上が活動を継続いただいております。市民活動応援補助金が事業活動の一翼を担っていると考えられる。また、事業規模の縮小や、できる範囲での活動等、コロナ禍における対応をとりながら活動費の確保にも努め、頑張っており、継続している姿が窺える。

また、活動が実施できなくなった団体は、コロナ禍によるものが大きく、医学的な新型コロナウイルス感染症の対策がより充実してくれば、活動再開の可能性も考えられる。

他団体との協働の経験については、半分程度が行ったことがあり、いくつかは補助金交付団体同士の交流が見受けられることから、提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会の実施が他団体の交流につながっていることが窺える。

今後の活動における支援では、活動資金確保以上に、多様な団体との協働が求められており、自由記載欄にもその傾向が色濃く出ている。今後、各種団体との交流の場の創出や活動内容、イベント等情報提供の強化とともに、これら情報を基としたコーディネートに係る相談の充実がより重要になると考えらえる。